

テーマ：貿易統計（2010年2月）
発表日：2010年3月24日（水）

～1-3月期の成長率は上振れへ～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
				輸出金額	輸入金額	アメリカ		EU	アジア	アメリカ		EU	アジア
				前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
08	1月	▲ 1063	9013	7.7	9.5	7.7	▲ 3.1	3.4	11.9	0.7	▲ 7.1	▲ 1.7	1.7
	2月	9358	6051	8.7	10.7	14.3	1.8	8.6	21.7	▲ 1.0	▲ 0.5	0.6	▲ 2.9
	3月	10962	5618	2.2	11.4	5.9	▲ 3.4	5.5	7.9	4.3	▲ 8.4	2.9	12.5
	4月	4587	6351	3.9	12.2	7.3	▲ 0.5	3.8	12.2	5.8	▲ 6.2	4.2	5.6
	5月	3411	3761	3.6	4.8	6.6	▲ 0.4	0.1	10.5	▲ 3.4	▲ 11.0	▲ 7.3	▲ 4.8
	6月	1041	▲ 278	▲ 1.8	16.7	▲ 1.5	▲ 8.6	▲ 8.9	1.1	4.4	11.9	1.9	2.0
	7月	819	1118	7.9	18.2	8.9	▲ 5.3	3.1	12.1	2.2	▲ 1.9	▲ 11.2	0.9
	8月	▲ 3142	▲ 1563	0.2	17.1	▲ 1.0	▲ 18.9	1.7	2.6	▲ 4.5	1.4	▲ 8.1	▲ 5.2
	9月	910	626	1.5	28.8	▲ 0.6	▲ 12.2	▲ 8.1	1.2	6.1	5.0	4.0	9.9
	10月	▲ 752	▲ 1547	▲ 7.9	7.4	▲ 6.9	▲ 17.4	▲ 10.4	▲ 2.8	▲ 2.4	▲ 18.3	▲ 6.0	1.8
	11月	▲ 2275	▲ 3772	▲ 26.8	▲ 14.4	▲ 22.7	▲ 28.5	▲ 16.8	▲ 22.4	▲ 10.7	▲ 12.2	▲ 14.8	▲ 8.6
	12月	▲ 3222	▲ 2505	▲ 35.0	▲ 21.5	▲ 29.9	▲ 31.3	▲ 29.7	▲ 30.7	▲ 7.1	▲ 16.1	▲ 10.6	▲ 5.6
09	1月	▲ 9679	▲ 5875	▲ 45.7	▲ 31.8	▲ 40.9	▲ 48.6	▲ 42.0	▲ 39.1	▲ 11.8	▲ 22.8	▲ 15.3	▲ 10.8
	2月	708	▲ 1228	▲ 49.4	▲ 42.7	▲ 45.3	▲ 55.5	▲ 45.6	▲ 40.6	▲ 25.2	▲ 24.3	▲ 27.4	▲ 30.7
	3月	▲ 54	▲ 1440	▲ 45.5	▲ 36.4	▲ 41.2	▲ 49.5	▲ 49.6	▲ 34.0	▲ 20.4	▲ 22.6	▲ 27.5	▲ 20.7
	4月	490	1100	▲ 39.1	▲ 35.5	▲ 35.8	▲ 49.4	▲ 42.8	▲ 28.8	▲ 20.2	▲ 27.2	▲ 29.7	▲ 18.9
	5月	2814	2778	▲ 40.9	▲ 42.2	▲ 36.2	▲ 46.9	▲ 40.2	▲ 27.6	▲ 23.9	▲ 34.9	▲ 28.7	▲ 23.1
	6月	4870	4343	▲ 35.8	▲ 41.7	▲ 27.7	▲ 38.3	▲ 36.1	▲ 19.1	▲ 18.1	▲ 35.8	▲ 23.7	▲ 13.7
	7月	3657	3152	▲ 36.5	▲ 40.6	▲ 27.6	▲ 34.7	▲ 36.4	▲ 18.6	▲ 14.9	▲ 30.3	▲ 24.3	▲ 11.5
	8月	1652	3527	▲ 36.0	▲ 41.0	▲ 25.4	▲ 29.3	▲ 39.0	▲ 15.8	▲ 12.8	▲ 29.3	▲ 15.3	▲ 7.7
	9月	5176	3529	▲ 30.6	▲ 36.8	▲ 21.8	▲ 27.3	▲ 31.7	▲ 9.5	▲ 10.1	▲ 22.1	▲ 19.1	▲ 7.6
	10月	8001	5593	▲ 23.2	▲ 35.5	▲ 13.0	▲ 21.1	▲ 26.7	▲ 1.9	▲ 11.7	▲ 6.0	▲ 20.4	▲ 10.5
	11月	3653	4846	▲ 6.3	▲ 16.7	▲ 1.5	▲ 6.2	▲ 18.5	11.9	▲ 2.0	▲ 9.9	▲ 4.2	1.6
	12月	5425	5407	12.0	▲ 5.5	14.7	▲ 2.4	▲ 1.5	32.9	▲ 0.8	▲ 2.1	▲ 2.4	3.5
10	1月	630	6511	40.9	8.8	41.3	18.2	14.1	63.7	2.2	3.6	▲ 0.6	5.6
	2月	6510	4705	45.3	29.5	46.0	47.2	15.4	53.6	23.0	4.5	13.6	39.3

(出所)財務省「貿易統計」

○ 1月の反動から前月比で小幅減少だが、均してみれば堅調

財務省が発表した10年2月の貿易統計では、貿易収支が6510億円となり、ほぼ事前の市場予想（5528億円）並みの結果だった。輸出金額は前年比+45.3%（1月：+40.9%）、輸入金額は同+29.5%（1月：+8.8%）と、昨年大幅に落ち込んだ反動もあって、ともに前年比で高い伸びとなっている。

輸出金額の季節調整値前月比（財務省公表値）は▲1.7%（1月：+9.1%）、物価変動の影響を除いた実質輸出（季節調整は当社）も前月比▲2.6%（1月：+8.5%）と、前月比では小幅減少となっているが、これは、中華圏の旧正月の時期が今年は2月（昨年は1月）だったことで1月分のアジア向け輸出が実勢以上に押し上げられていた反動が出たことの影響が大きい。1、2月については均して判断した方が良さだろう。実際、実質輸出の1-2月期平均の水準は09年10-12月期を+10.0%上回っている。09年10-12月期の前期比+8.2%から伸びがさらに高まっており、輸出が堅調に推移していることが確認できる結果と言えるだろう。中国を中心とするアジア経済が早いペースで回復していることに加え、米国経済も持ち直すなど、世界景気が回復感を強めていることが輸出増に繋がっている。

この結果、GDPベースの実質輸出も、09年10-12月期（前期比+5.0%）を上回る高い伸びになる可能性が高まっている。輸入の増加ペースが緩やかなものにとどまっていることも考慮すると、10年1-3月期についても外需によって成長率が大きく押し上げられる可能性が高いと思われる。加えて、設備投資の増加や在庫投資のプラス寄与などが見込めることもあり、1-3月期の成長率は上振れる可能性が高いと予想している。実質GDPは09年10-12月期に前期比年率+3.8%と、潜在成長率を大幅に上回る高い伸びとなっ

たが、10年1-3月期についても3%を上回る成長が実現する可能性があるだろう。

○ アジア向けが牽引

地域別では、引き続きアジア向け輸出の好調さが目立っている。実質ベースの前月比で見れば▲3.4%と減少しているが、これは前述の通り、1月に旧正月要因によって上振れた反動に過ぎない。1～2月平均の水準は10-12月期を+10.9%上回っており、アジア向け輸出は引き続き堅調に推移していると判断される。アジア各国では景気対策が依然効果を発揮していることに加え、先進国からの資本流入によって金融環境も極めて緩和的であり、景気回復が鮮明化している。特に中国経済は、好調な内需を背景に予想を上回るペースで回復しており、N I E s、ASEAN 諸国も中国需要の回復から高い成長を実現している。アジア向け輸出のウェイトが近年一段と高まるなか、アジア経済の高成長は、日本経済に多大な恩恵をもたらすだろう。なお、中国における金融引き締めによる景気悪化は懸念材料であるが、今のところ、過剰に供給された流動性を多少吸収する程度にとどまっており、金融環境は依然緩和的である。先行きも、景気が失速するほどの急激な引き締め措置は回避される可能性が高いだろう。

米国向けについては、実質ベースの前月比が+5.9%と増加した。アジアと比べると見劣りはするが増加基調が続いている。在庫復元の動きが持続していることに加え、米国の最終需要自体も徐々に持ち直しつつあることが寄与しているとみられる。なお、米国向け自動車輸出は2月も拡大しており、大手自動車メーカーのリコール問題の影響は今のところ確認できない。その他、大幅な落ち込みが続いていた中東、ロシアといった資源国向け輸出についても、水準は低いものの方向としては持ち直しに向かっている。

○ 景気の回復基調は当面崩れず

2010 年前半の国内景気を展望すると、政策効果の一巡を背景に個人消費が減速することや、公共投資が減少する可能性が高いといった下押し材料がある一方で、海外景気の回復を背景とする輸出の高い伸びが景気を牽引するとみられる。輸出関連製造業における投資意欲が回復することで、設備投資の増加が予想されることも好材料である。景気の回復基調は当面崩れないだろう。前述の通り、10年1-3月期の成長率が上振れる可能性が高まっていることに加え、4-6月期、7-9月期についても+2%程度の成長は可能だろう。当面、景気は上振れ気味に推移する可能性が高いとみている。

景気の変調をきたすのは、海外景気の減速を背景に輸出が鈍化すると予想される10年10-12月期以降だろう。10年度後半の成長率は前期比ゼロ%近くまで減速し、景気は軽い踊り場状態になると予想している。

